不退転

第 5 8 号
東 江 中 学 校
校長　神元 勉

感動的な卒業式

■答辞　篠田　大輔（第39期卒業生代表）

私達が東江中学校に入学して、早3年。時の流れを本当に速く感じた3年間でした。

中学に入学すると小学校ではなかった制服があり、それに袖を通しただけで、少し大人びた感じになりました。学校生活がスタートした時期は、集団としてまとまっておらず、落ち着きがありませんでしたが、時が経つにつれ、友達同士の会話も増え、元気のある学年になっていきました。

2年生では、修学旅行という大きな行事がありました。3泊4日、みんなと寝食を共にし、今まで気づかなかった友の顔を知ることができました。また、スキーをしたり、グリーンランドで遊んだりと、初めて経験したことがたくさんありました。この3泊4日で、仲間との絆がより強くなり、成長し、3年生へ繋ぐことができたと思います。

3年生では、新入生歓迎会から始まりました。屋内で初のレク大会を行い、その中で盛り上がったのが、五色綱引きでした。この競技で1年生の緊張がほぐれたのではないかと思います。

そして、6月に行った、全校生徒が団結する運動会。1年生のエイサー、2年生のダンス、3年生のフォークダンスに加え、生徒会種目で五色綱引きを取り入れ、新入生歓迎会以上の盛り上がりを見せてくれる種目となりました。運動会の閉会式の時に、みんなの顔を見ると、そこには開会式の顔と明らかに違う、やり遂げた満足感に満ちた顔がありました。その顔を見ていると思わず涙が溢れてきました。この行事でさらに成長した東江中を見せることができ、本当にうれしかったです。

合唱コンクールでは、どのクラスも最高の歌声を披露し、3年3組がグランプリを取りました。また、今までにない「不退転祭り」を催し、よい思い出を創ることができ、満足して終えることができました。

部活動においても、たくさんの結果を残すことができました。野球部のゆがふいん大会の準優勝。地区夏季総体では、女子バレー部の優勝。女子バスケの準優勝。女子ソフトテニスのペアでの優勝に加え、団体ベスト5。そして、ソフトテニス男子の6位に、卓球の個人戦ベスト5と多くの競技が県大会に出場しました。その中でも私にとって、夏休みがらスタートした陸上・駅伝の練習は、成長できた活動でした。

日々のきつい練習は、一つでも上の順位を目指して、一生懸命でした。みんなで支え合い、最後までやり遂げ、地区駅伝大会で男子が4位。県大会への切符を勝ち取ったときの感動は、いまでも忘れません。本当にすごいと思います。

後輩のみなさん。3年生になると1年間があっという間に過ぎてしまいます。それだけに、仲間と過ごす一日一日をもっと大切にしてほしいです。これからの東江中学校は、生徒会長の東憲太郎さん率いる執行部を中心に、新たな東江中を創っていってください。私たちは、これからもずっと東江中を応援しています。

先生方、入学してからの3年間、どんなときも僕たちのことを見捨てず、悪いところは悪いと注意してくださり、ここまで成長させてくださったことに本当に感謝しています。ありがとうございました。

そして、いつも一番近くで見守ってくれたお父さん、お母さん。悲しいときや悩んでいるとき、さりげなくかけてくれる一言が心の支えとなり、次に進むための勇気となり、自分の進路選択ができました。これからもたくさん迷い、悩んでいくと思いますが、解決策が見つからないときは助けてください。また、4月からは新しい生活が始まりますが、これからもずっと見守っていて下さい。本当にありがとうございました。

39期生のみなさん。私達が東江中に通い一緒に学んだり、遊んだりすることはもうありません。みなさんとは、とても楽しい日々を過ごすことができました。これからは、それぞれが自分の道を一歩踏み出し、みんな違う道に進むけれど、東江中学校で学んだことを糧に、毎日、今が一番楽しいと思って過ごしていてくれたら嬉しいです。（後略）

■学校長式辞

暖かい春の日差しを浴びて、校庭やなんぐすくの木々も新芽の緑に包まれ、まるで皆さんの門出を祝福しているかのようです。39期生の皆さん、卒業おめでとうございます。今、皆さん一人ひとりに卒業証書を手渡しましたが、引き締まった表情の中に、3年間の生活を立派にやり遂げたという大きな満足感と、新しい世界へ出発するのだという力強い決意を感じました。

そして、ご家族の皆さま、義務教育9年間を立派に修了したお子様の姿を目の当たりにして、今、皆さまの心の中は大きな感動に満ちあふれていることでしょう。そのお喜びに対して、心からご祝福申し上げます。

さて、私と過ごしたこの2年間のあなた達は、「最高」に輝いていました。時には、先生方とぶつかる場面もありましたが、先生方の指導をよく理解し、かつ信頼し、学習や行事、生徒会活動や部活動などに一生懸命に励んできました。何と言っても、各種大会での数々の活躍、文化面でも、各種検定試験で多数の合格者を輩出するなど、輝かしい実績を残しました。また、今年は、各種学校訪問が相次ぎましたが、皆さんの真摯で、はつらつとした態度は、学校を訪れる方々からも絶賛され、本校の名声をますます高めてくれました。

そのような皆さんとの別れに際し、はなむけに二つの話をします。

まず、「仲間を一人にしない。一人で抱え込まない。」ということです。困っている仲間がいたら、仲間を支えてあげてください。自分が困った時は、遠慮せず周りの仲間に支えてもらってください。ところで、2011年3月11日の東日本大震災と、東京電力福島第一原発事故から5年。道路や施設などのインフラの復興は本格化しています。これからは、被災者の「心の復興」のため、被災地の苦悩に寄り添い、支え合うことが求められます。

二つ目は「学び続ける」ということです。これからの変化の激しい社会では、生涯、学び続けることが、ますます重要になってきます。今後も、学び続けることで、高校生活や人生を有意義に、楽しく過ごしてくれると大いに期待しています。この3年間、しっかりと中学校生活を送ってきた皆さんなら、きっとできるはずです。皆さんの前途洋々たる幸多き人生を心から祈っています。

最後になりましたが、本日、ご臨席賜りました多くのご来賓の皆さま、地域やご家族の皆さまに心から感謝を申し上げますとともに、皆さまの今後のご健康とご活躍を心からお祈り致しまして、学校長式辞とします。

上の花道での写真を見ると、以前に紹介した「バブルマシーン」が発生するシャボン玉も大成功だったようです。

記念品贈呈の謝辞

39期生並びに保護者の皆さま、どうもありがとうございました。37期生、38期生からの贈呈と合わせて、学校車及び、製氷機の購入資金として、有効に活用させていただきます。